

### 令和3年度後期授業科目の概要及び開講時期

科目区分	No.	授業科目の名称	授業の概要	配当年次	開講時期	開講曜日	開講時限	担当教員
基礎	1	マーケティング	ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントだけでなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会等の最新のマーケティングテーマを対象とする。前半を講義、後半はディスカッションにより、実践的にマーケティングを考えられるようにする。講義で取り扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的マインドと創造力を習得する。	1年	第3クォーター (9月～11月)	土曜	1・2限	江戸克栄
応用	2	組織のガバナンス	ガバナンスは「統治」と訳され、企業に代表される組織の不正行為の防止と競争力・収益力の向上を総合的に捉え、長期的な組織価値の増大に向けた経営の仕組みであると定義づけられることが多い。組織のガバナンスを効果あるものにするため、様々な法制度、組織内の制度、またインフォーマルな慣行が設けられている。だが、こうした諸制度・慣行を設計し実施するにあたっては、様々な利害関係者(ステークホルダー)の利害が衝突する場面も少なくない。この授業では、まずは組織のガバナンスをめぐる最近の動向について学び、その後、事例(ケース)研究で受講生とディスカッションを行う。さらに、受講生自身が所属する組織のガバナンスについても、フィールドワークを実施して課題解決を試みる。授業を通じて単なる規範論に留まらない実践的ガバナンスについて理解を深める。なお、4コマ(2日)はゲストスピーカー(弁護士を予定)を招き、組織のガバナンスに関する最新の実務等についても触れる予定である。	1年	第3クォーター (9月～11月)	金曜	6・7限	安達 巧
応用	3	スモールビジネスのファイナンス	「ファイナンス」が大企業を対象としているのに対して、「スモールビジネスのファイナンス」は、文字通り、スモールビジネス(中小企業)を対象としている。スモールビジネス(中小企業)は、安定的に推移するビジネスと、急速に成長するビジネスに大別される。各々のビジネスにおけるファイナンスは大きく異なる。授業では、安定的に推移するビジネスを対象とした、スモールビジネスのファイナンス(中小企業金融)と、急速に成長するビジネスを対象とした、アントレプレナーファイナンス(スタートアップ/ベンチャーファイナンス)という2つの学問体系を扱う。授業は、担当教員からの講義とそれに伴う履修者によるプレゼンを組み合わせて行う。プレゼンに対する成績評価の割合が大部分を占めることから、プレゼンの準備、報告及び議論に多大な労力を伴うことを認識したうえで、履修されたい。	1年	第4クォーター (11月～2月)	水曜	6・7限	高橋陽二
応用	4	多様性と人材マネジメント	日本企業のグローバル化は全世界市場をその対象とし、サプライチェーンマネジメントによって地域企業や中小企業を巻き込む形で進化を遂げている。その過程において国際化、IT化、分権化といった企業側からの事情のみならず、企業の社会的責任(CSR)の側面からも企業におけるダイバーシティ(多様性)の推進とそのマネジメントは喫緊の課題となっている。本授業では、今日における人材マネジメントモデルを「ダイバーシティ・マネジメント」と位置付け、多様な人材のマネジメント手法に関して、理論的かつ実証的な考察を行っていく。講義はテキストおよび参考文献に基づく発表とレクチャーを中心に行うが、新聞・雑誌記事のトピック解説、ケースメソッド、グループディスカッション、全体討議も織り交ぜる。期末レポートでは、自社(あるいは特定企業)の多様性に関する課題を取り上げ、プレゼンテーションを行う。(※授業の進め方は履修人数によって変動することがある)	1年	第4クォーター (11月～2月)	土曜	1・2限	木谷 宏
応用	5	生産管理	これからの生産性の向上のポイントは、人間の思考工程の生産性の向上することである。本授業では、人間の思考工程の生産性の向上の方法を教える。一般的な工程分析法により、作業スピードは生産性はすでに十分に上がっている。本授業では、私自身が開発した「プロセス・テクノロジー」を用いて、技術で言えば設計や、文科系で言えば経理、営業、企画など、人の思考の連鎖で行われる工程の分析法を教える。私は、「プロセス・テクノロジー」を用いて、日本の大企業80社の思考工程分析を行った経験があるが、全ての会社の工程を、1/2以下に短縮した実績を持つ。その秘訣を教える。思考工程の分析メソッドを教える。プロセス・テクノロジーと称しているが、概念とメソッドであるから、バックグラウンドが、文科系でも、理系でも理解できる。まず講義で基本的な概念の教え、分析用フォーマットを使い実習形式で、課題の工程を、各自で分析してもらう。思考工程の分析は、熟練者の判断項目とその判断基準の連鎖を(思考工程の手順)あぶり出す。例えば、エンジンの設計の判断思考工程は、1万項目の判断の連鎖だった。その1万の判断工程で、熟練者が使っている判断基準(往々にして暗黙知と呼ばれる)を、明文化し、コンピュータで熟練者の知識を共有化することで、誰でも同じ判断ができるようにすることである。熟練者が辞めればなくなる知識を、コンピュータの中に、会社の資産として残す方法でもある。前半4回の授業は、同じ工程をテーマに思考工程分析法を教える。後半4回の授業は、各人が行っているそれぞれの実務をテーマに、自分の工程分析をしてもらう。昨年の実績では、職種は、公務員、薬剤師、製造部門、ソフト開発など、職種はそれぞれ違っていたが、10名ほどの学生のほぼ全ての人が、自分の工程を1/2以下にすることができた。	1年	第4クォーター (春季集中)	土曜	3・4限	山田真次郎

※ 表中の授業の概要及び開講時期は変更することがあります。